



新たな10年に寄せて

松葉 頼重*

新ミレニアムの最初の10年は、ナノテク、IT、ニューバイオ、その他多士済々のキーワードで彩られたモノづくりのカンブリア紀でした。国会図書館の蔵書が全部角砂糖のサイズに収まったかどうかは別にして、ナノテクに関する知識の集積度は急速に高まったようです。同時に、さまざまな分野での期待感はそのままだに、「ナノ」の意匠の中にも真贋がはっきりする時代に入ったとも言えます（これはブーム終焉へのサインでもあります）。それにしても、人間は一度にたくさんのもを發明し過ぎたのでしょうか。近世ヨーロッパ、ケプラーは自らの發明品である屈折望遠鏡を「神の御技を行う豊かな知識の機械」と称え、畏敬の念を詩に遺すことを忘れなかったそうです。この大科学者が現代社会のモノあふれ状態を見たとすれば、未来に降臨した神々のかくも多きことに驚き、厚い信仰心を失ってしまうのではないのでしょうか。

さて、これからの10年はどうでしょうか。「過去ではなく未来を選べ」とはドラッカーの有名な言葉ですが、昨日までは選ぶべき未来があまりにも多かった時代でもあります。「本当に正しい未来を選んだのですか」と、碩学の叱責混じりの問い掛けを受けようとしていた矢先に、米国の金融危機を震源とする不況の大津波に見舞われてしまいました。その影響の甚大さゆえに、私たちの築き上げた社会・経済システムに対するディープインパクトであったと言えます。

これを機に、私たちは心の中に潜む飼い馴らせない竜たちを追い払い、冷静さを取り戻す必要があるのだと思います。地球温暖化によって水没する南の島々に想いを馳せることはできても、実際には、なかなか重い腰を上げようとしなかったのがこの10年でした。ここに来て、次に選ぶべきキーワードが「環境・エネルギー」であることに異論はなさそうです。すでに、政策としての「グリーン・ニューディール」が打ち出され、主要国で具体的な取り組みが始まろうとしています。エネルギー政策としてばかりでなく、産業として大きな雇用創出につながり、沈滞化した経済の賦活剤としての期待も大きいようです。「転身譜」にある鉄の時代は終わりますが、人類滅亡の大洪水からは何とか免れられそうです。

ちなみに、今年は大ダーウィンが「種の起源」で進化論を提唱してから150年、アニメの話ではなく、JIEPの進化形について考えるべき時期が到来しています。10年後、すなわち創立20周年に当たっては、危機をチャンスに変え、大きく進化したJIEPの姿を会員の皆様と一緒に祝いたいものです。